

〔目的〕高山市の郷土料理の現状を知り、高校生の郷土料理に対する認識につき調査し、郷土料理が食行動に及ぼす影響について検討を加えることを目的とした。

〔方法〕高山市にある高等学校2校の高校生247名の家庭より事前に行事食、郷土食についての調査を行い、行事食・郷土食（以下郷土料理という）30品を選び出した。そして、その料理につき、「料理に対する嗜好（感覚）」「料理に対するイメージ」「料理の摂取状況」及び「個人の家庭での食事状態」について調査を行った。嗜好調査については、「おそらく食べる気にならない」の1点から「最も好きな食品に入る」の9点まで点数を与え、各料理についての平均値を出し、因子分析を行い、嗜好による料理の遠近関係を調べた。又、イメージの調査では、料理の各項目ごとの反応数を集計し、各料理の反応数の平均値を出し、平均点以上を1、平均点以下を0というダミー変数を導入し、数量化Ⅲ類により、イメージによる料理の遠近関係を調べた。

〔結果〕郷土料理でもっとも好まれた料理は「五平餅」であり、好まれなかったのは「なれずし」であった。嗜好による料理の位置関係では、「みたらし団子」「五平餅」が日常の料理と近い関係にあり、日常の料理と同じ好みでうけとられていた。しかし、これらは、摂取状況の調査から約90%の人が家では作らないで店で買って食べるという状況であった。又、郷土料理で酢を使った料理は他の料理と離れた所に位置し、もち米を使った料理どうしは近い所に位置していた。イメージによる料理の位置関係は、郷土料理は、日常食の「スパゲッティ」「鶏からあげ」「トンカツ」と遠く離れていた。